

Japan EV Festival 2016

「第22回日本EVフェスティバル」開催のお知らせ 2016年11月3日(木・祝)筑波サーキット・コース1000にて “CO₂削減&アクセル全開！”

22回目を迎える日本EVフェスティバル。

コンバートEV1時間ディスタンスチャレンジ、ERK30分ディスタンスチャレンジといった恒例のトライアルに加え、今年新たに3つの催しが登場します。

自動車メーカー製EVオーナーによるタイムアタック、
EV・プラグインハイブリッド車・FCVのサーキット試乗会、
そして、日本初の自動運転競技車タイムアタック。
エキサイティングなイベントが盛りだくさんです！

一般社団法人 日本EVクラブでは、今年22回目を迎えるEVの祭典「日本EVフェスティバル」を開催します。日本EVフェスティバルは、自分たちで作り上げた改造EVを持ち寄ってレースをしたり、アイデア満載の手作りEVを展示するなど、参加者はもちろん家族や観客も交え、みんなでEVを楽しむ参加型の祭典です。

会場は昨年と同様、筑波サーキットのコース1000。日程は、昨年の春から今年は秋に変更し、11月3日(木・祝)に開催します。

昨年と同様、コンバートEV1時間ディスタンスチャレンジ、ERK30分ディスタンスチャレンジ、何でもEV展示、およびカーメーカーと部品メーカーの環境対応商品を展示・説明する環境EXPO等を行います。

さらに今年は、EVフェスティバル初となるプログラムを3つ用意しました。

1つめは、国内外メーカーのEV・PHEV(プラグインハイブリッド車)・FCVにジャーナリストとともに乗り、ドライビングレッスンを受けながらサーキットを運転する試乗会、2つめはEVオーナーなら誰でもエントリーできる自動車メーカー製EVオーナーズ・タイムアタックで、どちらもEVやPHEVをより身近に感じることができます。

3つめの自動運転競技車によるタイムアタックは、自動運転化の潮流に先駆けた日本EVクラブならではの試みです。競技車の車両規則は「人が乗れる大きさであること」のみ。どんな競技車が登場するか、無事に完走できるかなど、見所はいろいろです。

筑波サーキットコース1000は、1周1,003mの、初心者からベテランまで楽しめるコースです。コース全体を見渡せ、コンバートEVやERKの迫力あるレースをすぐそばで見ることができます。参加者も見学者も一緒に楽しめるのでファミリーにもおすすめです。

また、昨年、好評だった地元物産コーナーが再び登場します。地元のグルメや新鮮野菜のほか、当日のお楽しみ品目もあり、フェスティバルを盛り立てます。

秋の青空の下、サーキットを走ったり、静かなレースを見たり、展示ブースを覗くなどして、まずはEVを楽しんでもらう。それと同時に、自動車における環境・エネルギー問題とCO₂排出量削減について考える場にしたいと考えています。

今年のメインテーマは「CO₂削減&アクセル全開!」。CO₂を削減しながら自動車を楽しむ21世紀型の環境対応イベントです。

イベントの詳細は、ホームページをご覧ください(<http://www.jevc.gr.jp/>)

* * *

Japan EV Festival 2016、テーマは「CO₂削減&アクセル全開!」
地球温暖化防止車がサーキットを駆け抜ける!

■開催概要

- ◇開催日：2016年11月3日（木・祝）8:45~16:00
- ◇会場：筑波サーキット・コース1000（茨城県下妻市村岡乙159）
- ◇主催：一般社団法人 日本EVクラブ
- ◇共催：一般財団法人 日本オートスポーツセンター
- ◇後援：環境省、国土交通省、経済産業省、一般財団法人日本自動車研究所、茨城県、茨城県下妻市

◇内容

- (1) コンバート（改造）EV1時間ディスタンスチャレンジ ※エントリー：15台
手作りのコンバートEV（電気自動車）による1時間耐久チャレンジ。鉛電池クラス（6台）とリチウムイオン電池クラス（9台）の、バッテリーの種類が異なる2クラスがあります。クラス混合、ハンディなしで走行し、クラス別に表彰します。ドライバー人数無制限、地球温暖化クイズの結果を反映するなど独自のルールを設けた、フェスティバルの原点とも言うべきモータースポーツです。
- (2) ERK30分ディスタンスチャレンジ ※エントリー：22台
コンバートEV1時間ディスタンスチャレンジと同じく、フェスティバルの人気トライアル。手作りの電気レーシングカート（ERK）による30分耐久チャレンジ。バッテリーの交換回数、セット数は無制限。ドライバー人数も無制限。鉛電池搭載のERK-1（7台）、ERK-2クラス（7台）、リチウムイオンクラス（8台）の3つのクラスが出場します。
- (3) 何でもEV展示&デモンストレーション ※エントリー：2台
日本EVクラブからは前2輪、後1輪の電気三輪車、「E3-01」が出展するなど、ユニークなオリジナルEVが登場。デモランを行います。
- (4) 最速デモンストレーション ※エントリー：3台
ERKによる最高速デモンストレーション走行。コースレコードを狙います。
- (5) **New!** 自動車メーカー製EVオーナーズ・タイムアタック ※エントリー：10台
自動車メーカー製EVに乗っていても、そのEVの本当の実力を知る人は意外と少ないのでは。「私のEVの本当の実力を知りたい」というEVオーナーがコース1000を真剣に走ります。予め決められた基準タイムより速いと失格、ギリギリまで基準タイムに迫ったドライバーが優勝です。

(6) New! 自動運転競技車タイムアタック ※エントリー：2台

自動車の自動運転化の動きに先駆けた、日本初の自動運転競技車によるサーキットタイムアタック。車両規則是「人が乗れる大きさであること」。今年はラジオコントロールでの走行も許されます(模型は不可)。

(7) 環境EXPO/New! EV・プラグインハイブリッド車・FCVサーキット試乗会

EVの最新情報と環境対応技術をテーマにした展示ブースです。自動車メーカー9社が出展予定。各ブースで展示内容のプレゼンテーションの時間も設けています。

また、今回は特別にサーキットでの試乗会を行います。

走り方がわからないという方のために、ジャーナリストが隣に乗ってサーキットの走り方や最新のEV・プラグインハイブリッド車・FCVの正しい乗り方をレクチャーします(e-ドライビングレッスン)。サーキット走行が苦手だという方は、モータージャーナリストの運転で走ります。走り方のレクチャーがあり、これまで勘違いしていた運転テクニックに気づいたり、ドライビングテクニックを見せてもらえることも。楽しく、ためになる同乗試乗です(同乗e-ドライビングレッスン)。

■出展メーカーおよび車両(予定・順不同)

トヨタ(MIRAI)、ホンダ(クラリティ)、三菱(アウトランダーPHEV)、日産(リーフ、e-NV200)、メルセデス・ベンツ(GLC350e 4MATIC)、アウディ(A3 Sportback e-tron)、BMW(i3、225xeアクティブツアラー、330e、X5 xDrive40e)、フォルクスワーゲン(ゴルフGTE、パサートGTE)、ニチコン(EVパワーステーション、急速充電器)

■試乗会参加ジャーナリスト(順不同)

津々見友彦、片岡英明、斎藤慎輔、石井昌道、斎藤 聡、竹岡 圭、諸星陽一、ピーター・ライオン
吉田由美、小沢コージ

■ベンチャーテント

OZ MOTORS(ベスパカー、ジャイロキャノピー)、(株)日本エレクトライク(Electrike)、ライト・モビリティ設計(琴、琵琶)

(8) Reducing CO2(CO2排出量診断)コーナー、物産コーナー

CO2排出量診断コンテスト：自宅から筑波サーキットに来る交通(クルマ、電車、徒歩等)で排出したCO2を診断します。診断用の用紙に必要事項を書き込むと、計算ができます。

また、今年も地元物産コーナーを設けます。地元下妻市の名物グルメや採れたて野菜のほか、温かな軽食などの用意があります。

★開催概要は、ホームページ(<http://www.jevc.gr.jp>)でもご覧いただけます。

☆ 開催概要の内容は、予告無く変更になる場合があります。

☆

一般社団法人 日本EVクラブ代表 舘内 端

☆問い合わせ先 担当: 日本EVクラブ事務局 石川響子

〒156-0043東京都世田谷区松原2-20-10-401

TEL 03-5376-8446 FAX 03-5376-5310 <http://www.jevc.gr.jp> E-mail: info@jevc.gr.jp